

## 化学科・村松康行教授；21年度「ヨウ素学会賞」を受賞

化学科の村松康行教授が、「ヨウ素の微量分析法の開発と環境・地球化学への応用」に関する研究で2009年度「ヨウ素学会賞」を受賞しました。10月29日、第12回・ヨウ素学会シンポジウムにて受賞講演が行われました。

日本はヨウ素の最大級の産出国であり、世界の約4割を日本が占めています。その多くは、千葉県、新潟県、宮崎県などの地下に存在するかん水(塩分に富んだ水)から生産されています。しかし、何故ヨウ素がそれらの地域に濃縮しているのかは謎でありました。村松教授はヨウ素とその放射性同位体( $^{129}\text{I}$ )の精度良い分析法を確立し、上記のかん水の起源やヨウ素の濃縮メカニズムに関する新しい解釈を発表しました。また、安定ヨウ素や人為起源の放射性ヨウ素の環境における分布や挙動に関する多くの新しい知見も得られました。それらの成果により、ヨウ素学会賞が授与されました。

(なお、ヨウ素学会賞はヨウ素の基礎研究、応用研究、ヨウ素産業の分野で、その発展に著しく貢献した個人に対して、ヨウ素学会よりおこなわれるものであります。)

関連サイト: [大学プレスセンター](#)